

## ◎アルドメット錠 [内]

【重要度】★★ 【一般製剤名】メチルドパ水和物 (U) methyl dopa hydrate 【分類】血圧降下剤

【単位】◎125mg・△250mg/錠

【常用量】初期量：250～750mg/日，維持量：250～2000mg/日

【用法】分1～3

【透析患者への投与方法】半量に減量 (6) 腎不全では活性代謝物が蓄積する

【その他の報告】投与間隔を12～24hrに延長 (3,4,10,17)

【CRRT】250～500mgを8～12hr毎 [iv] (17)

【保存期 CKD患者への投与方法】Ccr>50mL/min：常用量，Ccr10～50mL/min：常用量を9～18hrごと，Ccr<10mL/min：常用量を12～24hrごと (10) 【その他の報告】Ccr10～50mL/min：常用量を8～12hrおき，Ccr<10mL/min：常用量を12～24hrおき (3,12,17)

【特徴】ドパのαメチル体，中枢神経系α2受容体刺激作用による末梢交感神経活性の抑制，血管拡張により降圧作用を示す．主要臓器の血流をよく維持するため脳血管障害や腎障害を伴った高血圧に使われることが多い．妊娠期にも比較的安全に使える．

【主な副作用・毒性】重篤な血液障害 [溶血性貧血，白血球減少，無顆粒球症，血小板減少]，脳血管不全症状，舞蹈病アテトーゼ様不随意運動，両側性バレル麻痺，発熱，肝機能障害，心筋炎，便秘，口渇，TEN，SLE様症状，抑うつ，悪夢，不眠，頭痛，徐脈，高プロラクチン血症，鼻閉，浮腫など

【安全性に関する情報】発熱は投与初期3週以内に多く，好酸球増多・肝機能障害を伴う場合がある (1) 500mg/日で意識混濁を認めた透析患者3例の報告 (柳 麻衣，他：透析会誌 48: S538, 2015)

【モニターすべき項目】抗核抗体，CBC，LE細胞試験，血圧，直接クームス試験，肝機能

【吸収】ka=1.22/hr (1)

【F】25% (10,15) 17.6±6.9%が初回通過効果 [硫酸抱合] を受ける (1) 25% (1)

【tmax】2～4hr [平均2.9hr] (1)

【代謝】アドレナリン作動性ニューロンで活性体のα-メチルノルアドレナリン変換 (1) 肝での硫酸抱合は静注後より経口後の方が多く現れる (U)

【排泄】尿中未変化体排泄率16.5% [po, 24hrまで] (1) 20～60% (4,10) 65% (6) 20～40% (15) 25～40% (12) 吸収量の約70%がメチルドパと mono-O-sulfate metaboliteとして尿中に排泄 (U) 【CL】221mL/min [po] (1) 400mL/min (10) 3.1mL/min/kg (15) 【腎CL】74mL/min (1) 【非腎CL/総CL】40% (10)

【t1/2】2.1hr (1) α相1.7hr (U) 5.8hr (2) 1～1.7hr (4) 1.8hr (6,8) 1～1.7hr (10) 1.5～6hr (12) ke=0.35/hr (1) 【透析患者のt1/2】α相3.6hr (U) 7～16hr (2,4,10) 3.6hr (6) 1.8hr (15) 6～16hr (12)

【蛋白結合率】メチルドパ：20%以下，硫酸抱合体：中等度 (35～64%) (U) 非抱合体0%，抱合体50% (1,6) 0% (8) 15%以下 (10,12) 50% (15)

【Vd】0.63±0.85L/kg (1) 0.3L/kg (6) 0.6L/kg (10) 0.3～0.4L/kg (15) 0.5L/kg (12)

【MW】238.24 [水和物]

【透析性】メチルドパはHDでも腹膜透析でも除去される (U) 除去率5～20% (6) HDクリアランス：35mL/min (8) 透析で除去される (1)

【TDMのポイント】TDMの対象にはならない【O/W係数】

【相互作用】MAO阻害剤と併用禁忌 [高血圧クリーゼの発現] (1) レボドパと併用注意 [降圧作用の増強] (1)

【最大効果発現時間】単回投与：4～6hr，連続投与：2～3日 (U)

【効果持続時間】経口：単回投与12～24hr，連続投与24～48hr，静注：10～16hr (U)

【備考】尿中カテコールアミン濃度の偽性高値 (測定妨害) のため，褐色細胞腫の診断が妨げられることがある [褐色細胞腫患者には投与しないことが望ましい] (1) 尿を放置するとメチルドパ又はその代謝物が分解され，尿が黒変 (1)

【更新日】20200408

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。